

都道府県別賞一等

母の高齢出産から学ぶ、生命保険

佐賀県 佐賀清和中学校 三学年

北里 優斗

「えっ、もう一人弟が産まれるの！」母から十三歳離れた弟ができたことを大興奮で教えてもらったのが、私が小学校六年生の冬でした。二歳下の弟と大喜びしたのを昨日のことに覚えています。母は、四十四歳の高齢出産でした。

厚生労働省のデータによると、近年では、出産年齢が母の様に、高齢化しており、三十五歳以上の方は、全体の三割近くを占めているそうです。高齢出産となると、当然ですが、リスクはつきものです。それらを防ぐには、しっかりとした医療環境を整える必要があると思いました。

私も中学生ですが、「入院給付金」という言葉を聞いたことがあります。「入院給付金」とは、入院一日に対して支払われる給付金で、例えば入院給付金五千円なら、入院一日あたり五千円が給付されます。「じゃあ、出産で入院するときはどうなるの？」という疑問が私に湧いて来ました。通常分娩の場合は、入院給付金を受け取ることが出来ないかと、母から聞いてビックリしました。給付金をもらうには、あくまでも「治療のための入院」であることが条件になるそうです。ただし、異常分娩であれば、女性特有の医療保険だと保障対象になるとの事で、高齢出産の母のリスクを考えると保険の大切さをすごく感じました。

母の妹である叔母は、私が、小学校低学年の時に、乳ガンの手術をしました。その時の主治医は、私の父でした。その際、母は、父に「姉妹に乳ガンの患者さんがいる女性は、いない女性に比べて二倍以上乳ガンになりやすいと言われる。だから、定期的な検診と生命保険を見直した方がいい」と言われ、女性特約を充実させたそうです。何かイベントやアクシデント等が、あった時だけでなく、生命保険とは、定期的に見直しをしていく必要があると思いました。健康な中学生の私は、保険とは、日頃の生活の中では、あまり考えた事が無かったのですが、今回、母の妊娠が、保険をすごく勉強できる良い機会だったと思います。まだ若いから大丈夫というわけではなく、若い内に保険のことについて、いかに学ぶことができるのが大切だと思いました。

また、弟の教育が終わってから、両親がリタイアするまでの期間に大きな差がでてきます。老後資金を貯めたい時期と、教育費が多くかかる時期が重なることはリスクと言えるため、両親は、保険を見直し、NISAやiDeCoを

第61回中学生作文コンクール

活用して貯蓄プラス投資も視野に入れ、今から準備をしています。
保険とは、各家庭のニーズに合わせて、自分らしく生きていく大切な備えであって、大切な武器だと思いました。私も、これから大人になって保険について考える時期が来ると思います。なので、しっかり自分に合った保険を見つけていけるように、今の内から勉強していきたいです。